

質問の概要

発言順	議席・氏名	質問の内容
1	1 原野 晃太 2 金森 煌大 3 田中 大智	1 学校行事等の支援金について (1) 私は、長引く物価高騰から子育て世帯の家計を守るため、本市に在住、または在学する公立小・中・高校の学校行事にかかる費用、特に修学旅行費などに対する市独自の公的補助制度の新設を提案いたします。現在、物価高はあらゆる家庭の生活を圧迫しており、教育費の負担も年々大きくなっています。私自身、先月修学旅行に参加いたしましたが、その費用の大きさを肌で感じ、各家庭の経済的負担の重さを痛感いたしました。本市には就学援助制度がありますが、これは対象となる世帯や小中学生に限られており、高校生や、いわゆる「中間層」と呼ばれる多くの一般家庭の負担軽減には至っていません。そこで、全ての世帯を対象に、学校行事費の半額、あるいは一定額を市が補助する取り組みを提案します。これが実現すれば、各家庭の経済的負担が大幅に軽減されることは間違いありません。さらに、「石川県で最も子育てにやさしい街」としての野々市市のブランド力が強まり、若い世代の定住や人口増加、街の活性化に繋がると確信しております。本市がさらに住みやすく、全ての家庭に寄り添う温かい街に発展するために、ぜひ本提案の前向きなご検討をお願いいたします。
		2 ゴミ箱の設置について (1) 私は、美しい野々市市を守るため、「市内の公共スペースへのゴミ箱の設置数を増やすこと」を提案します。先日、学校の校外清掃を行った際、道端にタバコの吸い殻や空き缶などのポイ捨てされたゴミが、たくさん落ちている現状を目の当たりにしました。これはモラルの問題だけでなく、街の中に「ゴミを捨てる場所」が不足していることも一因ではないでしょうか。ゴミ箱を増やすことは、管理面の課題もありますが、駅周辺や通学路など、場所を限定して設置すれば、ポイ捨ての抑止力になると確信しています。街の景観を守るため、ゴミ箱の増設について、市のお考えをお聞かせください。
		3 商業娯楽施設について (1) 私は、市内に若者が集える商業娯楽施設を増やす、あるいはそうした民間施設を誘致することを提案いたします。現在、私たち高校生が友人と休日に遊ぶ際、市内には適した施設が少なく、市外へ移動せざるを得ないケースが多々あります。これには多大な移動時間や交通費がかかり、学生にとって大きな負担となっています。また、地元の若者が市外で消費行動を行うことは、市の消費活動の機会損失であり、地域の活性化に繋がりにくいと感じております。もし市内に魅力的な商業娯楽施設が増えれば、市民の満足度が向上するだけでなく、市内での消費が促され、市税収入の増加が期待できます。さらに、魅力的なエンターテインメント施設ができることで、市外からも多くの人が集まり、関係人口の創出や地域のさらなる活性化にも繋がると考えます。野々市市が、単なる「住みやすい街」にとどまらず、若者にとっても「住みやすく、かつ楽しい街」へと発展するために、この提案は不可欠であると確信しております。ぜひ前向きなご検討をお願いいたします。
2	4 増山 ほのか 5 大西 結衣 6 松田 姫愛	1 のっティの逆回りルートについて (1) 私は、コミュニティバス「のっティ」について、現在の循環ルートに加え、逆回りのルートの新設し、双方向での運行を行うことを提案いたします。私は普段、北部ルートを利用して帰宅しておりますが、明倫高校から一番近い北部ルートのバス停、フォルテまで徒歩で約20分かかります。また、中央ルートののっティでは約40分でフォルテに、西部ルートののっティでは約35分で野々市駅南口に到着し、北部ルートに乗り換えます。しかし、黒い矢印の逆方向のルートがあれば中央ルートを利用して約15分、西部ルートを利用して約25分でバス停に到着し乗り換えることが出来ます。実際私はのっティを利用したいのですが長時間待つことになるため徒歩を選択しています。特に、雨の日は歩いて行くと制服やリュックが濡れて余計に疲れます。また私以外にも同様な状況の方がいることをよく耳にします。そのため、是非のっティの双方向の運行の前向きなご検討をお願いいたします。
		2 のっティのバス停へのベンチ・柵の設置について (1) 私は、コミュニティバス「のっティ」のバス停における、ベンチや寄りかかり柵（ヒップレスト）の設置を提案いたします。現在、本市のバス停において、近くに休憩できるベンチ等が設置されているのは、市役所などの一部の公共施設付近に限られており、大半のバス停には座る場所がありません。しかし、買い物帰りの方や、重い荷物を持った学生、そして高齢者の方々にとって、立ったままバスを待つことは身体的に大きな負担となっています。もしバス停に少しでも休憩できるスペースがあれば、待ち時間を快適に過ごすことができ、移動の負担も大幅に軽減されます。設置スペースが限られている場所であれば、歩行者の通行を妨げない「省スペース型のスリムベンチ」や、お尻を乗せて寄りかかるだけの「ヒップレスト」を導入するという方法も大変有効であると考えます。このように、限られたスペースでも設置可能な設備を活用し、年齢や体力を問わず、誰もが安心して「のっティ」を利用できる優しいバス停環境の整備を進めていただきたいと考えます。市の、前向きなご検討をお願いいたします。

発言順	議席・氏名	質問の内容	
2	4 増山 ほのか 5 大西 結衣 6 松田 姫愛	3 信号機の変更について	
		(1)	私は来々野々市店近くの歩車分離信号をよくある信号機に変更することを提案します。私は自転車登校なので中学生の時も現在もその信号を利用しているのですが、利用する側からすると不便に感じる場面や危険に感じる場面があります。また、以前車両側の信号は赤なのに渡っている車を見かけました。おそらく歩道者側の信号だけを見て判断したんだと思います。これは一歩間違えれば事故につながることです。歩車分離信号は本来、安全のためのものですが、現状の運用ではかえってドライバーの誤認を招き、危険を生み出している側面があります。そこで、この交差点の信号サイクルを一般的な運用方式へ変更することを含め、ドライバーへの注意喚起看板の設置など、事故を未然に防ぐための具体的な安全対策を講じていただきたいと思います。誰もが安心して通行できる通学路の確保に向け、ぜひご検討をお願いいたします。
3	8 小林 舞香 9 西山 空音	1 空き家の利用について	
		(1)	私は、地域の活力を守るため、「野々市市における空き家の利活用」について提案します。本市は人口が増加している一方で高齢化も進行しており、相続などの理由から空き家が発生していることが課題となっています。空き家を放置することはリスクですが、リノベーションして「地域の多世代交流スペース」や「学生・若者のチャレンジショップ」として活用すれば、新しい賑わいの拠点に生まれ変わります。街の魅力を高めるため、空き家を地域や若者のために有効活用していくお考えについて、市のご見解をお聞かせください。
		2 道路反射鏡の増設について	
		(1)	私は道路反射鏡を増設、および設置状況の見直しを提案いたします。私は中学生の頃から現在に至るまで、市内の道路を自転車で通学しておりますが、日々の生活の中で、前方から来る車や歩行者が視認しにくく、安全確認が困難な場所が多々あると感じています。一方で、適切な場所に道路反射鏡があることで、事故が未然に防がれている場所があることも実感しております。特に早急な対策をお願いしたいのが、「ユニクロ野々市店付近の地下道」です。この場所は小中学生の通学路になっており、すでに道路反射鏡は設置されています。しかし、道幅が狭く、ミラーが地下道の出入り口に近すぎるため、前方から来る人や自転車の発見が遅れ、私自身も衝突しかけた経験があります。また、車を運転する家族からも「対向車が直前まで見えなくて危ない」という声を聞いています。このように、「設置はされていても、現在の位置や角度では十分に安全確認ができていない場所」が存在します。そこで、単に新しいミラーを増やすだけでなく、既存のミラーの角度調整や、より広範囲が見える大型ミラーへの交換、そして必要な場所への増設を強く提案いたします。地域の子どもたちが毎日安心して通行できる環境を作るため、ぜひ前向きなご検討をお願いいたします。
		3 大型のイベント会場設置について	
		(1)	私は、本市の持続的な発展に向け、国際会議や大規模イベント、コンサートなどが開催できる、多機能型の大型施設の設置を提案いたします。本市は、交通利便性の高いコンパクトな街であり、充実した子育て支援や文化施設を背景に「住みやすく便利なまち」として人口が増加し、活気に満ちあふれています。しかし、このように市内が活性化している一方で、市外や県外から大規模に人を呼び込むための「ビジネスハブ」が不足していると感じております。ビジネスハブとは、人、モノ、情報が集中し、周辺地域の経済活動の中心地として機能する場所のことです。本市が持つコンパクトシティとしての強みや、高い交通利便性を活かせば、国内外から多くの人々やビジネスを呼び込むことは十分に可能であると考えます。大型の複合会場を整備し、エンターテインメントイベントを誘致・開催できれば、交流人口や関係人口の飛躍的な増加に繋がります。それは単なる経済効果にとどまらず、野々市市の国際的な知名度を高め、次の世代へ向けた持続的な発展の足がかりになると確信しております。ご検討のほどよろしく申し上げます。
4	10 中野 龍弥 11 羽左間 隆太 12 長守 慶仁郎	1 運動をする場所について	
		(1)	私は、市民が日常的にスポーツに親しみ、健康的に暮らせる環境づくりのため、本市における運動施設の増設、および地域的なバランスを考慮したスポーツ環境の整備を提案いたします。私がこの提案を行う理由は、大きく2点あります。1点目は、現在、運動ができる主要な施設が市の中央部に集中しており、地域的な偏りがあることです。2点目は、天候に左右されずに利用できる「屋内スポーツ施設」が市内に限られていることです。私は日頃から体育館などのスポーツ施設を利用しておりますが、それらの多くは中学校の部活の練習場所として優先されていたり、一般利用者が多く混雑していたりするため、満足に利用できないケースが多々あります。そこで、現在公共の運動施設や公園が比較的少ない「徳用周辺」や「扇が丘周辺」などのエリアにおいて、新しく体育館や体を動かせる公園・広場などを整備することを提案いたします。土地の確保や予算の課題はあるかと存じますが、すべての市民が身近な地域で、いつでものびのびと運動を楽しむ街づくりのために、今後の都市計画や公共施設の配置について、ご検討のほどよろしく申し上げます。

発言順	議席・氏名	質問の内容
4	10 中野 龍弥 11 羽左間 隆太 12 長守 慶仁郎	2 除雪状況確認アプリの制作と導入について (1) 私は、冬期における市民の利便性向上と安心・安全の確保のため、「除雪状況をリアルタイムで確認できるスマートフォンアプリ」の制作、および導入を提案いたします。本市において、冬期の除雪は市民生活に直結する重要な課題ですが、現状では「自分の利用する道路の除雪がいつ行われるのか分からない」という情報不足が、市民の大きな不安やストレスになっていると感じております。そこで、市内の道路地図をベースに、「除雪完了」「作業中」「未除雪」といった状況をリアルタイムで可視化するアプリの導入を提案します。さらに、市民から道路の積雪状況や危険箇所を写真付きで投稿・報告できる双方向の機能を備えることで、市側にとっても迅速な対応や、危険の早期発見に繋がると考えます。除雪体制そのものを大幅に増強するには多額の予算や人員が必要ですが、デジタル技術を活用した「情報提供の充実」であれば、市民の不安を和らげ、冬期に市役所へ集中する問い合わせ電話の件数を大幅に削減できるなど、業務の効率化にも繋がります。ぜひご検討のほどよろしくおねがいします。
		3 じょんから祭りにおける飲食スペースについて (1) 私は、本市の夏の伝統行事である「野々市じょんからまつり」において、来場者のための飲食・休憩スペースの拡大、および新たな設置を提案いたします。私は毎年じょんからまつりを楽しみに足を運んでおりますが、会場内の飲食スペースが常に満席の状態で、座る場所を確保できないケースが多々あります。その結果、多くの来場者が階段や地べたに座って飲食をされており、食べるのに不便を感じるだけでなく、安全面や衛生面、またお祭り全体の景観という点からも課題があると感じております。じょんからまつりは、市外からも多くの人が訪れる本市の大きな魅力の一つです。だからこそ、お祭りを訪れたすべての人々が快適に過ごせる環境づくりが不可欠であると考えます。そこで、現在のスペースを拡張することはもちろん、会場内の空きスペースの有効活用や、立ち食い用のハイテーブルを設置するなど、限られた空間でも多くの人が利用できる工夫を提案いたします。市民だけでなく市外からの観光客の満足度をさらに高め、誰もが心地よく楽しめるじょんからまつりにしていくために、このような会場内の環境整備について、市のお考えをお聞かせください。
5	13 西井 悠真 14 木村 治斗 15 野々村 颯人	1 野々市中央公園周辺道路について (1) 私は、野々市中央公園周辺の道路における、交通安全対策の強化について提案いたします。現在、私が提示している写真の場所におきまして、日頃から強い危険を感じており、その理由は大きく2点あります。1点目は、街路樹が道路側に大きく張り出していることです。この影響で、特に自転車と通行する際、車道側への大幅なはみ出しを余儀なくされ、後方から来る自動車との接触リスクが高まり、非常に危険な状態です。2点目は、中央線が摩耗して見えにくくなっていることです。これにより車線の境界が曖昧になり、ドライバーが意図せずに対向車線へ進入してしまうなど、重大な事故を誘発しかねない現状があります。そこで私は、「中央線の引き直し」と併せて、街路樹対策として「適切な剪定」または「安全柵の設置」を提案いたします。剪定を行うことで木陰が減少してしまう懸念や、柵の設置には費用や時間がかかるという課題があることは重々承知しております。しかし、何よりも優先されるべきは市民の命を守る安全対策です。誰もが安心して通行できるよう、中央線の引き直しと、現場の状況に応じた最適な街路樹対策の実施について、市のご見解をお聞かせください。
		2 信号機の明るさについて (1) 私は、歩行者の安全な道路横断を確保するため、歩行者用信号機の視認性向上、および定期的な点検体制の強化を提案いたします。日頃、市内の交差点で信号待ちをしている際、日中の明るい時間帯において、歩行者用信号の表示が非常に暗く、見えにくいと感じる場所が散見されます。中には、青か赤かの判別が困難なほど暗くなっている信号機もあり、これは歩行者の誤認による飛び出しや、重大な交通事故を誘発しかねない極めて危険な状態であると痛感しております。この原因には、電球の経年劣化や故障、あるいは西日などの太陽光が反射して見えなくなる「擬似点灯現象」などが考えられます。信号機の設置や管理の主な管轄は警察となりますが、市民の命を守るため、市から警察に対して、市内の暗い信号機の速やかな修理や、日中でも見えやすい「LED式信号機」への早期更新を強く要望していただきたいと思います。また、不具合の早期発見に向けて、交換や修理に留まらず、地域の通学路安全点検と連動した定期的なチェック体制の整備や、市民が気づいた際に気軽に報告できる仕組みづくりについても、併せて提案いたします。誰もが安心して歩ける野々市市にするために、本提案について市のご見解をお聞かせください。

発言順	議席・氏名	質問の内容	
5	13 西井 悠真 14 木村 治斗 15 野々村 颯人	3	古い家の耐震化を進めるための、市の取り組みについて (1) 本日は、野々市市を襲う地震の中で最も甚大で近い将来、発生する確率が最も高い「森本・富樫断層帯」および、その他想定されている大地震への対策について質問します。例えば、森本・富樫断層帯について国が想定するワーストクラスにおける震度分布図を考えると、野々市市の広域で震度6弱～6強に相当する非常に大きな揺れに見舞われます。このような甚大な被害により、倒壊した家に対して市では、古い木造住宅を直すために最大210万円の補助金を出したり、まとまったお金を立て替えなくていい便利な制度を導入したりしていると認識しております。外面的に見れば、非の打ち所のない非常に実用的な制度のように思えますが、私はこれには致命的な盲点があると考えております。それは、市民が自分で気づいて、自分から市役所に言いに行かないと制度を受けられないという点です。白山市在住の私は、新耐震基準を満たさない1981年6月1日より前に建てられた家に住んでいますが、このような手厚い補助金の制度や、お金を立て替えずに済む便利な仕組みがあることを、これまで何も知らずに支援を受けられないまま過ごしてきたのが実情です。どれだけ市役所が最善だと思われる制度を作ってホームページ等に載せていても、お年寄りの方や情報を知らない市民のところに届いていなければ、その制度は十分に機能しているとは言えません。また、野々市市は白山市よりも人口が少ないうえ、財政力もあるため補助金や制度の周知にかけられる費用も多いはずです。そこで、3点お伺いします。第1に、市内にある古い木造住宅のうち、実際にこの補助金を利用して家を改修した人は、全体の何%を占めているのでしょうか。第2に、野々市市にはどの家が1981年以前に建てられたかというデータがあるはずです。これは電子機器で条件を満たす対象を絞るだけで済むので人件費や労力もかかりません。これらを全て考慮すると、私からの提案として、対象の世帯に向けて「お金を立て替えなくて済む制度があるという旨」の手紙を送ることが挙げられます。この方法であれば、人件費等のコストも最小限に抑えられるため、資金を圧迫しないと思うのですが、これについてどうお考えになりますか。第3に、野々市市は既に公共の場において充実しており、利便性に優れているように感じます。インフラに充てる費用やその他実用性のない制度等に配分する資金を必要最低限にまで抑え、浮いた資金を補助金の限度額の上昇や市民への周知の為に資金に充てるべきだと思います。地震による犠牲者を一人でも減らすために、前向きな回答をお願いします。